

クォリティー オブ ライフ

エンジン01文化戦略会議

オープンカレッジin下関

佃一可

クオリティ オブ ライフ をどう読むか

生活の質
生活の豊かさ
人生の品質
人生の？

下関会議のテーマ
教育・長州
茶

長州・幕末
勤王の志士・吉田松陰
→萩の人

山口というと
→大村益次郎・花神

大村 益次郎(おおむら ますじろう)

ってどんな人①

文政7年5月3日（1824年5月30日）

– 明治2年11月5日（1869年12月7日）

医者・西洋学者・兵学者、江戸時代後期の幕末から明治初頭に活躍した陸軍指導者。明治2年7月8日付けで兵部省兵部大補（後の陸軍次官）。事実上の日本陸軍の創始者、あるいは陸軍建設の祖と見なされる。山県有朋の師。幼名は宗太郎、通称は蔵六、良庵（または亮庵）。諱は永敏。本姓は平氏を自称する。位階は贈従三位、後に従二位。

大村 益次郎(おおむら ますじろう)ってどんな人②

「トンヤレ節」

品川弥二郎作詩・大村益次郎作曲

宮さん宮さんお馬の前に
ヒラヒラするのは何じやいな
トコトンヤレ、トンヤレナ
あれは朝敵征伐せよとの
錦の御旗じや知らないか
トコトンヤレ、トンヤレナ

流行歌の始まり

大村の戦略

江戸から明治へ

理屈で理解させる
武力で封じ込める
雰囲気気で納得させる

大村は誰からこれを学んだか

江戸末の教育＝私塾 幕末の私塾の経営者達＝文人

- 松下村塾—吉田松陰
- 適塾—緒方洪庵
- 廉塾—菅茶山
- 山紫水明処
—頼山陽・田能村竹田
- 古義堂—伊藤仁斎
- 改心楼—大原幽学
- 鳴滝塾—シーボルト
- 咸宜園—広瀬淡窓
- 懐徳堂—中井甕庵
- 葦山塾—江川英龍
- 藤樹書院—中江藤樹
- 鈴の屋—本居宣長

緑文字＝煎茶に関係が深い

大村の師・広瀬淡窓

咸宜園

幕府の天領であった、豊後国日田
当時の日本としては最大の私塾

門下生

蘭学者・高野長英

兵学者、大村益次郎

塾の最盛期には230人もの塾生

教育理念＝「咸宜」「ことごとくよろし」

- ・どんな身分のものでも
- ・どんな学問でも
- ・誰でも、どんな才能のものも

教育内容＝優れた教育法

- ・情操教育の徹底

理解するということは

悟り

およそ悟りというものは、禪に限らず、一切の事にあるものなり。

何事にもあれ、

その意味の、心には解すべくして

口には言い難きあるところを会得したる。

すなわち悟りなり。

情操教育とは何か

およそ人の心中を二つに分てば意と情となり。
意は是非利害を判断して、有益のことはこれをなし、無益のことはこれをなさず。これ意の職なり。

その無益と言うことを知りつつ忍びがたく捨て難きあるはこれ情なり。

詩文の道において文は意を述ぶる事をつかさどり、詩は情を述ぶることをつかさどる。

意のみでは本質を把握出来ない

「情」の奨励



「作詩」の奨励

桂林莊雜詠

広瀬 淡窓

いうを止めよ 他郷苦辛おおしと
同袍 友あり 自ずから相親しむ
柴扉暁にいずれば 霜雪の如し
君は川流を汲め 我は薪を拾わん

休道他郷多苦辛 同袍有友自相親
柴扉暁出霜如雪 君汲川流我拾薪